

スタディツアー in 東北

～地域社会への貢献と復興支援を通じて社会事業の興し方・続け方を学ぶ～



スタディツアーin東北では、東北で注目を集めてきた社会的企業5社と、東日本大震災以降に東北で事業を起こした4団体を訪問します。

東北で注目を集めてきた社会的企業は弱者を守る、日本の文化を守るなど、地域に根ざして社会的課題に取り組み、新しい価値を生み出している企業ばかりです。これらの企業は東日本大震災の際にも、自らの事業を通じて復興を支援し、地域に貢献してきました。

また東日本大震災直後に、いち早く被災地に駆けつけ復興を支援し、事業を興した団体を訪問して、どのような思いを持って事業を興したのかを伺います。

地域社会への貢献と復興支援を通じて社会事業の興し方・続け方を学ぶスタディツアーです。複数日にわたるスタディツアーとなるため、皆様のご都合に合わせて参加日数を選択することも可能です。

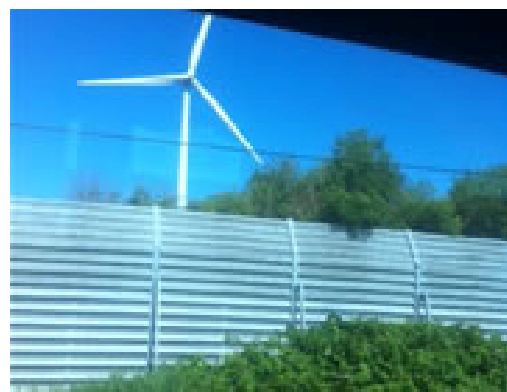
スケジュール概要

<Aプラン・Dプラン> 2012年11月30日・12月1日・2日(3日間)

<Bプラン・Eプラン> 2012年11月30日・12月1日(2日間)

<Cプラン・Fプラン> 2012年12月1日・2日(2日間)

日付	時刻	内容	詳細
11月30日 (金)	9:30	集合	東京駅集合
	13:00	視察	訪問先1 有限会社フタバタクシー
	16:00	視察	訪問先2 株式会社清月記
	19:00	宿泊	ホテル着、食事、宿泊
12月01日 (土)	07:00	朝食	ホテル内
	09:00	視察	訪問先3 医療法人社団鉄祐会 祐ホームクリニック石巻 訪問先4 富士通株式会社
	13:30	視察	訪問先5 特定非営利活動法人りあすの森
	16:00	視察	訪問先6 有限会社熊谷産業
	19:00	宿泊	ホテル着、食事、宿泊
12月02日 (日)	07:00	朝食	ホテル内
	09:00	視察	訪問先7 有限会社オйкаワデニム
	12:00	視察	訪問先8 陸前高田市広田町
	14:30	視察	訪問先9 株式会社高田自動車学校
	22:00	解散	東京駅解散



社会起業大学
Social Entrepreneur School

企画協力：復興協働ネット／社会起業大学講師 鷹野秀征

料金体系



プラン	視察費(事前お支払い)	ホテル・新幹線(現地お支払い)
Aプラン	43,490円	35,350円
Bプラン	39,490円	28,280円
Cプラン	39,490円	29,590円
Dプラン	43,490円	12,800円
Eプラン	39,490円	6,300円
Fプラン	39,490円	6,500円

※深夜バス等、現地までの移動を自己手配ご希望の方は、D・E・Fプランをご利用ください。

【スタディツアーの詳細・お申込みはこちら】 <http://www.socialvalue.jp/seminar/detail000606.html>

【お問い合わせ先】 社会起業大学 運営事務局 TEL:03-6380-8444/FAX:03-6272-5888/MAIL:info@socialvalue.jp



■ 訪問先1 有限会社フタバタクシー 代表取締役 及川孝氏

仙台市宮城野区にある有限会社フタバタクシーは、創業以来52年の寝台車タクシーが前身の老舗タクシー企業の一つです。当社の特色は、その車両編成と利用者の構成にあります。小型車イス対応車両14台、ストレッチャー仕様車両7台(兼用車両3台)、宅下げ車両3台、大型福祉車両5台と合計52台規模であり、東北全体を見ても類のないものです。月間予約本数6000件を超える需要を引き出している。取扱商品別に構成を見ますと、福祉・介護移送部門 35%、子育てタクシー部門 10%、一般タクシー部門 50%、宅下げ部門 5%となっています。



■ 訪問先2 株式会社清月記 代表取締役 菅原裕典氏

仙台圏で葬祭斎場15会館と仏壇ギャラリー4店舗、ケータリング・フードサービス事業を運営しています。仙台圏での葬祭業者においては最後発の参入でしたが、事業規模、売上では北関東以北でトップクラスまで成長を遂げました。その飛躍の秘密は、明細会計を導入する等、常に「お客さま主導で葬儀を考えるようにしてきたこと」にあります。また、自分の生い立ちや家族へのメッセージ、お葬式に呼びたい方の住所や資産管理も行えるインターネット版エンディングノート「エンディングバンク」(特許出願中)、インターネットを利用した無料の訃報掲載や弔電サービスなど、他に例のないサービスを独自に開発し、展開しています。



■ 訪問先3 医療法人社団鉄祐会 祐ホームクリニック石巻 事務局長 園田愛氏

2010年1月、「住み慣れた地域で自分らしく生きる」をコンセプトに、東京都文京区にて在宅医療診療所「祐ホームクリニック」を開設(翌年1月法人化)。2011年9月、東日本大震災で甚大な被害を受けた宮城県石巻市に在宅医療診療所を開設、仮設住宅や被災地域宅への在宅医療・介護ネットワークの構築に取り組む。しかし被災地では、医療のみならずその背景にある生活の問題が甚大であった。そこで翌月、特に支援の手が届いていなかった在宅被災世帯に対する支援団体「石巻医療圏 健康・生活復興協議会」を設立。全戸訪問調査と専門職フォローに取り組む。2012年度は同活動が石巻市の委託事業となり、現在に至る。



■ 訪問先4 富士通株式会社 ソーシャルクラウド事業開発室 生川慎二氏

震災発生後、2日後に富士通災害支援特別チームを企画し、実践部隊として被災地支援に関わる。つなプロを始め、行政・NPO・ボランティアに対し、クラウドによる情報管理の仕組みを支援する。宮城県石巻・女川エリアで在宅被災世帯の健康・生活アセスメントから、行政や健康・生活支援サービスにつなげる活動に取り組む。少子高齢社会の社会課題解決に向けて高齢先進国モデル構想会議として離れて暮らす老親の支えあい循環に取り組む。



■ 訪問先5 特定非営利活動保人りあすの森 事務局長 豊沢幸四郎氏

りあすの森は、自然豊かな宮城県石巻市の復興支援と、懐かしさが残る未来の村づくりを目指しています。復興支援としては、復興住宅管理をはじめ、地域復興のための社会インフラ整備や産業復興支援、歴史的建造物等の文化財復興支援などを実施しています。それとともに、懐かしさが残る未来の村づくりとして、自然とともに歩んできた地域の文化歴史を大事にし、そこにある知恵と、新しい技術や考え方を融合させた、持続可能であり循環可能な、心のつながった村づくりを“スロー・ビレッジ”と定義して目指しています。



■ 訪問先6 有限会社熊谷産業 代表取締役 熊谷秋雄氏

北上川の良質な葦を刈り、茅葺屋根の吹き替えや土蔵の土壁の基礎材などのお販売をはじめ、天然スレート葺屋根や国宝・重要文化財保存修理工事に多く携わっています。熊谷産業では、葦を扱う仕事が減少する中、茅葺き職人を育てながら新しい葦の使い方として、「建築物の壁を茅葺きにする」という、斬新なアイデアで茅葺きの普及を推進しています。



■ 訪問先7 有限会社オйкаワデニム 代表取締役社長 及川秀子氏

オйкаワデニムは1981年に設立されて以来ずっと稼働していますが、2度の経営危機を迎えています。1度目は秀子さんのご主人が他界された時、2度目はバブル崩壊。これらの苦難を乗り越え、2006年に自社ブランドで商標登録、特許も取得した「スタジオZERO」を立ち上げました。東日本大震災では高台の上の工場が被災を免れたため、被災者150人の受け入れをして工場と一緒に生活しました。そんな中でもいち早く工場を再開してデニムを作り続け、「被災に負けなかったジーンズ」「復興のデニム」として、地域の方々に勇気づけています。



■ 訪問先8 復興支援団体SET 共同発起人兼現地統括 三井俊介氏

復興支援団体SETは、被災した岩手県陸前高田市広田町の方々を抱えている様々な問題を、多くの人が訪れる機会を作り、復興活動に関わる事を通じて解決し、今後の町づくりに貢献することを活動目的としています。特定の分野に絞らず、広田町の方々の状況に合わせたサポート活動を行い、若者世代向けの陸前高田市広田町現地入りプロジェクトの開催しています。人や町の様子や、活動を通じて感じた想いを、東京での企画やWEB等を通じて発信しています。



■ 訪問先9 株式会社高田自動車学校 代表取締役社長 田村満氏

陸前高田ドライビングスクールは以前は岩手県陸前高田市にありましたが、3.11の大災害で中心地は全て破壊され、再生不能の状況になってしまいました。スクール自体は、幸いなことに高台にあったために難を逃れることが出来ましたが、町が壊滅してしまったため、売上がゼロになってしまいました。幸い、平成13年に平泉の教習所を取得し、平成16年には遠野市に教習所を開設していたり、また平成18年には建設機械等の講習センターも開設など、これらが功を奏し、社員達のは待遇面で迷惑をかけることなく、経営しています。尚、平成17年より農業部門を設立、現在は有限会社満福農園として経営しています。